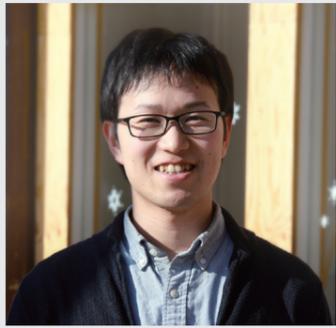


一BAスタッフに聞く



佐藤 柁平さん

●Profile 1991年大東町渡民生まれ。2017年8月から一関平泉イン・アウトバウンド推進協議会に参加。一BAの運営に携わっている

一BAを自然に人が集まる場所にしたい

一BA(いちば)に関わるようになったきっかけは、3年前に行ったまちづくり地域おこし事業の「一関はっぶん塾」です。そのときに知り合った、現在の一BAの関係者に声をかけられて今に至ります。

一BAのイベントスペースは、高専生の研究発表や市内の団体の講座などに活用されています。物販スペースは駅で取り扱わない雑貨や地元産の食品などを扱っています。また、一関を訪れる人が快適に観光できるように手荷物預かりや配送のサービスなどを実施しています。

現在の目標は「一BAを自然に人が集まる場所にする」。まずは一BAのことをたくさんの人に知ってもらうことから始めたいです。

一関を面白く企画会



profile:
活動地域: 市内全域
現在のメンバー: 20代を中心に30人ほど

内容: それぞれがやってみたいことを企画し、メンバーが支える

代表: 櫻井陽
電子メール: yo.sakurai
1nchiki@gmail.com

SNS講座、浴衣での街歩きや夏祭りでかき氷の出店を出すなど参加者がやってみたいことを企画し、メンバーがそれを支える形で活動しています。

毎月11日の夜にはみんなで集まり夕食を食べる会「11back」を実施。毎回10人前後の人が交流しています。

若い人たちがつながる場を提供することで、一関には何もないと思っていた人たちが楽しく暮らせるようになることが「一関を面白く企画会」の目標です。

いちば
一BA

2017年7月に一関駅前に観光情報の発信や起業などを旨とする若者たちの交流拠点としてオープンした。会員に有料で貸し出すシェアオフィス兼イベントスペースと物販スペースからなる。運営は一関平泉イン・アウトバウンド推進協議会。今後、「世界遺産平泉・一関DMO」の拠点となる予定。

「世界遺産平泉・一関DMO」とは?

市内と平泉町内の観光資源を生かし、持続可能な社会を目指すための団体。具体的には、国内外からの観光客の動向やニーズを調査しながら、地域全体の観光のプロデュースなどを行う。観光客の閑散期対策や観光客による旅行消費を地域全体に波及させることにも取り組む。

現在一関平泉イン・アウトバウンド推進協議会がDMOとしての登録申請書を観光庁に提出し、4月の発足を目指している。



地域をデザインする若者たち

室根と愉快な仲間たち(通称: 室愉会)



profile:
活動地域: 室根地域
現在のメンバー: 20代~40代の12人
内容: 室根地域の課題解決を目標に、若者世代の目線で室根の将来を考える

代表: 室根まちづくり協議会(室根市民センター内)
☎642347

室根地域の少子化などの課題解決を目標に活動しています。

これまで、若い世代の交流を目的とした室根山でのキャンプ、子供たちと子育て世代の交流のための映画上映会などを行いました。

特に映画上映会「金曜夜のミニシアター」は閉校した旧津谷川小学校の校舎を活用し、野外で上映。若い世代だけでなく高齢者も参加し、地域内の世代間の交流を図ることができました。

舞川イノベーション会議



profile:
活動地域: 舞川地域
現在のメンバー: 20代後半~40代の約10人
内容: 舞川の地域資源を活用しつつ、守り伝える活動

代表: 舞川地域課題対策協議会(舞川市民センター内)
☎282111

舞川地域の資源の価値を知り、自分たちで舞川を守るために2015年から活動している「舞川イノベーション会議」。

月に1回集まり、地域資源を生かしつつ自分たちが楽しめるイベントなどを考えています。現在取り組んでいるのは「舞川マップ」の作成。舞川地域で作られていた舞草刀にまつわる場所を調べて地図化しています。昨年初開催し、200人以上が訪れた小塚棚田の「ほたる火まつり」もまた実施する予定です。

わらすたーず
waraSTAR's



profile:
活動地域: 大東地域
現在のメンバー: 30代を中心に15人ほど
内容: 「幸せのかたちをデザインする」をモットーにまちを盛り上げる活動を実施

代表: 小野寺伸吾 ☎050-5215-0730

2015年にまちを盛り上げる活動を行うことを目的に結成しました。

これまでに地元企業の工場見学、にぎわい市や川床まつりでの出店や映画上映会を開催しました。特に昨年8月の映画上映会は盛況。大原市民センターでの映画の上映は数十年ぶりで、老若男女たくさんの方が訪れました。

活動を重ねるごとに知名度も上がり、地元のさまざまなイベントに呼ばれるようになりました。

若い世代が見据える
一関の未来

ここ数年、「自分たちが住んでいる地域をよくしよう」と、まちづくり活動を行う20~40代が増えている。地域資源の再発見、若者同士の交流や伝統文化の伝承など、その活動は多岐にわたる。

一関平泉イン・アウトバウンド推進協議会で代表理事を務める松本数馬さん(37)は「一関に足りないもの」として「人が集まる場所」を挙げる。観光客という一関の「外からの視点」と一関に住んでいる人の「内からの視点」が交わる場所として、仲間と共に「一BA」を立ち上げた。これまでとは違う視点から地域を見直し、まちを盛り上げる新しいアイデアが生まれることを期待している。

地域の課題解決に取り組む若者たち。目指すのは若者自身が住みたいと思うまちだ。その活動の一つが「一関を理想のまちへと近づける。よりよい未来に向かって、若者たちは、歩きはじめた。

若者たちの
取り組み

一関というまちに生きて、
良いところも悪いところもあると感じた。
より住みやすいまちを目指して、
若者たちが動き出す。